

事業の背景・目的

- 鳥ノ巣半島は吉野熊野国立公園内に位置し、南方熊楠ゆかりの神島を前面に臨み、田辺湾の干潟や大小ため池が存在する、豊かな自然環境が維持されている地域である。しかし、そのため池にここ数年来、外来生物のアフリカツメガエルが大繁殖し、在来生物を脅かし生物多様性損失の危機となっている。
- 地元の中高等学校生物部や自然保護団体、地域住民等が連携して防除活動に取り組み、鳥ノ巣半島の生物多様性を保全し、豊かな自然環境を次世代に継承していく。



鳥ノ巣半島と神島

事業の内容

- 鳥ノ巣半島内のため池34箇所において、県民や地元中高等学校及び自然保護団体等の参画のもと、アフリカツメガエル等外来生物の根絶に向けた防除及びモニタリングを行う。

【令和元～3年度】

事業 アフリカツメガエル等外来生物の防除活動の実施

(1) 県民ボランティアの組織化

- 県民による外来生物防除を担うチームを組織化。

(2) モニタリング調査・計画策定

- 専門家による調査を行い、防除計画を策定。

(3) 池干し・防除活動を行い絶滅ラインを確保

- ため池の水抜きを行い、在来生物を保護し、アフリカツメガエル等外来生物を防除。



アフリカツメガエル



ため池



ポンプで水抜き



防除網を設置

(4) 評価委員会の開催

- 有識者による評価委員会を開催し、活動へフィードバック。

得られた成果

- 3年間で、地域の協力を得て、県民ボランティアや中高生らとともにため池34か所のうちアフリカツメガエルが確認された31か所で防除作業を実施し、10か所で駆除に成功した。しかし、まだ21か所で生息が確認されているとともに、半島外（国立公園区域外）でも発見されており、継続したモニタリングが必要である。
- 今後は、国立公園区域内における外来生物の防除の視点だけでなく、地域の生物多様性保全へ活動の幅を広げ、潜在的な自然環境の回復を目指す。